

目的と目標レベル

関東支部長 荒井 直人

(富士重工業㈱ 執行役員)



今年の夏、長年患っていた持病の手術をし、完治したのをきっかけに、ゴルフを始めました。目的は、健康のためと言うのは言い訳で、実はゴルフを誘われるたびに断ることの後ろめたさからの解放です。そして、やるからに少しでも上手にならなければと考え目標を決めました。年齢が近いこと、練習の多さは数いるプロの中でもトップクラス、そしてファンあつてのプロという謙虚なスタンスの中嶋常幸プロの心技体レベルへと目標を高く設定しました。しかしながら、現実には5カ月過ぎた今でも120レベルのド素人です。

私達は、日々の生活の中で、何かを行おうと決めた時、何かの目的や動機があります。そして、目標については、決めた場合と決めない場合を比較すると、達成度合いに大きな差が出てくることが多いことを実感していると思います。たとえ目的が明確であつて、目標とするレベルはそう高いものではないとしても、達成するにはかなりの努力を必要とします。まして、高い目標の場合、達成するためには必死の努力が必要であり、それはたいてい辛いものとなります。しかし、結果が出て達成すると、辛さはすぐに忘れてしまい、達成感に裏打ちされた自信と更に自らを高めていこうというモチベーションが残り、満足感を得るのではないのでしょうか。

例えば、国を動かす政治の世界でも基本は同じだと思います。日本の政治においても、その時々の内閣は、経済の活性化による国力強化という目的を、それぞれ特徴ある目標レベルで設定しています。今考えると良かったのか悪かったのかは判断の分かれることですが、昭和30年代の池田勇人内閣は「所得倍増計画」を、そして、昭和40年代の田中角栄内閣は「日本列島改造論」という目標レベルを示しました。この目標は単純で解かりやすく、当時、政治にまったく興味のない子供だった私も漠然と知っているほどでした。そして、その掛け声とともに日本の国が驚異的に成長し、大人の人達は将来に期待し、満足感を得ていることを感じていました。私は5年

ほど前から、中国へ出かける機会が多くなっていますが、まさしくこの時代に受けたのと同じ感覚と驚異、そして脅威を、現在の中国に重ね合わせています。

私達車体工業会の会員各社も当然それぞれの目的と目標レベルを明確にして企業活動を行っているわけですが、目標達成の手段・方法は、時代と共に変化し、世間との「調和・共存共栄」を図りながら進めることが特に重要となつてきています。

特に近年、車体製造業界を取り巻く環境も、コンプライアンス、環境保全、ディスクロージャー...等、ますます社会的責任が大変重くなつてきています。会社の規模によって大なり小なりの差があるにせよ、これらのことはかなりの負担になっており、車体工業会への入会目的のひとつに、車体工業会からのアドバイス、情報入手を期待している会員会社も多いのではと思っています。

私は1年前から関東支部長に就任し理事会等に参加していますが、車体工業会は業界の発展・成長のために、関係省庁との連携や情報提供等、誠実・真面目で「地道」な活動を行っている団体だと感じています。不正改造根絶や、活性化、情報提供...と、本当に各会員、役員、事務局共にご苦労されていることを見て実感しています。しかしながら、世間の方には余り知られていない団体であることが本当に残念に思います。

会員の皆様はどのような目的と目標レベルを期待し車体工業会の会員になつていのでしょうか。会員に所属する魅力は何なのでしょう。車体工業会には車体製造や改造、整備、修理等に関わる約250社の個性・能力に富んだ会社が加入しており、まとめれば大きな力となり影響力も強くなるという魅力を秘めています。

世間や行政に車体工業会の存在意義を示し、認知度を高めていくことにより、個の力では難しい、より強い影響力を得ることが出来ればと期待しています。